

鞭竹  
筍竹

ば漸々長崎までは、無事にして届けりといふ、夫より遠方へは、損じて送りがたしとなり、此筍元來常の竹の子よりも、格別和らかなるゆへ、尤損じやすしとなり、孟宗竹の孟宗は、古人の名なり、親の爲に冬筍を得たる事、廿四孝に見へたり、此筍寒中にも出るゆへに、孟宗竹といへり、元來唐土より渡り來れりといふより、薩州にては唐孟宗と呼なり。

## 〔武江年表六〕安永八年己亥

薩州侯品川の前邸へ、琉球産の筍を始て植らる、諸人これを珍賞す。世に孟宗と稱す。

〔塵塚談下〕孟宗竹近頃化頃文は江戸に大なる竹藪、諸所に出來たり、明和の比は、皆人珍らしく思ひし竹にて有しなり、四五年以來、筍も太くして一尺四五寸、二尺廻りの大なるが夥しく出て、八百屋毎に賣事なり、何地より出るやしらず、薩摩國にては、此筍を紙に漉よしなり、

〔草木育種下〕江南竹八閏通志又雪竹とも云、本暖國の產なり、今所々に植、春早く筍を生ず、根もとへ糲糠を多く入べし、早く筍を生ず、移植は五月十三日を竹醉日といふ、此日に植ればよく活なり、竹よく實入たる時、枝の所の三分一梢を切たるもよし、

## 〔安齋隨筆前編七〕鞭竹 草津の鞭竹は美濃より出る也、本は草津の土產にあらず、

## 〔倭名類聚抄二十〕筍 唐韻云、筍音昆和、箭竹名也、

〔箋注倭名類聚抄竹〕筍說文作箠、云菌籜也、禹貢云惟菌籜楷、三邦底貢、楚亂ヒ諫、哀時命並云、箠籜雜於巖蒸兮、箠籜卽菌籜也、或單言菌、中山經云、暴山其木多竹箭箠箠、郭注云、箠亦箠類、中箭、王念孫曰、菌之言圓也、說文云、圜謂之囷、方謂之京、是囷圓聲近義同、菌竹小而圓、故謂之箠也、竹圓謂之菌、故桂之圓如竹者、亦謂之箠、名醫別錄云、箠桂、正圓如竹、按戴凱之竹譜云、箭竹高者不過一丈、節間三尺堅勁中矢、江南諸山皆有之、劉達吳都賦注云、箭竹細小而勁實、可以爲箭、通竿無節、江東諸郡皆有之、又按箭竹古單名箠、詳見征戰具箭條、